

投稿 東北の星、酒井栄さん、どうもありがとう

～岩手県奥州市のすばらしいアマチュア天文観測者～

亀谷 收（日本宇宙少年団水沢 Z 分団／NPO 法人イーハトーブ
宇宙実践センター／奥州宇宙遊学館／元国立天文台）

天文教育普及研究会会員でアマチュア天文観測者として長年星の美しさと魅力を伝えてこられた酒井栄（さかいさかえ）さんは、去る 2025 年 2 月 28 日朝、病気の為亡くなりました。満 72 歳でした。酒井さんのご冥福を心からお祈り申し上げます。

亡くなる 1 か月ほど前までは、活発に天体写真の撮影や国内の様々な天文関係の会合参加などを行われていました。急に体調を崩されて入院されてから、わずか 1 か月ほどで帰らぬ人になられたことに関係者は皆、とても驚くと共に悲しみに包まれました。

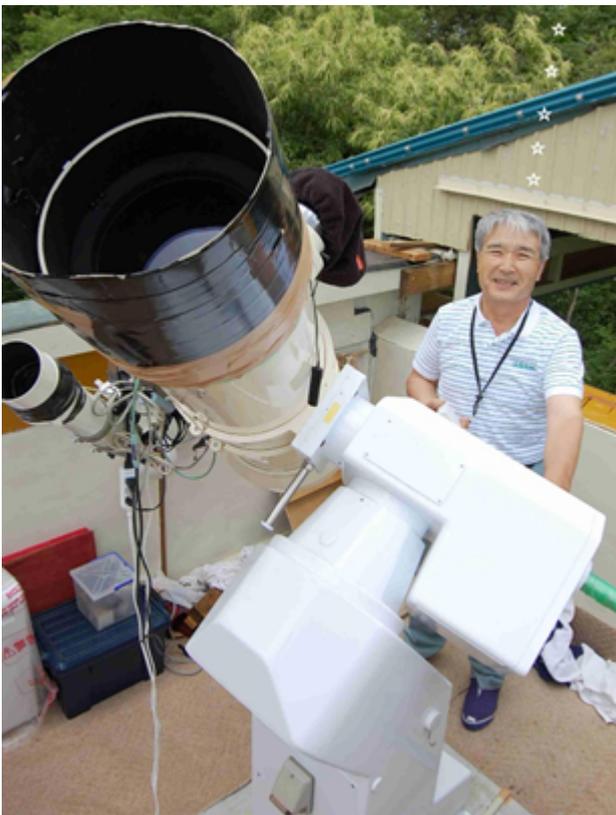


図 1 酒井天体観測所で（ご遺族提供）

酒井さんは、1953 年 1 月 23 日に岩手県奥

州市でお生まれになりました。小学校の頃に近くに住む知り合いに望遠鏡で土星を見せてもらった事がきっかけで星が好きになったそうです。少年時代は、望遠鏡を自作して、毎晩星空を眺めていたそうです。その後、電気工事の会社を経営しながら、北上山地の一角の水沢地区黒石町（蘇民祭で全国的に有名になった黒石寺の近く）の星空が素晴らしい場所に、1978 年に私設天文台「酒井天体観測所」を図 1 のように設置され、その後約 47 年間に渡って、ほぼ毎晩のようにここに通いながら、天体観測や写真撮影を続けてこられました。これまで星雲星団や彗星、流星などの天体に加え、はやぶさ 2 などの観測が困難な人工天体の写真撮影に本領を発揮されました。私が以前にこの観測所を訪問させていただいた時、酒井さんが撮影された天体写真と共に、そこを訪れた数えられないほどの星仲間の写真が部屋一杯に貼られているのに圧倒されました。今回、酒井さんの訃報が全国を巡ると、全国にいる多くの星仲間からも、数えきれない追悼メッセージが寄せられました。

酒井さんは、天体観測以外にも活躍しておられました。意外な所ではマラソン愛好家で、陸上競技公式審判もされていたそうです。1 月下旬に入院された日には、奥州市の市スポーツ顕彰・スポーツ功労賞の表彰式にも参加されていたとの情報もありました。

天文関係では、地元で言えば、私が現在分団長を務めさせていただいている日本宇宙少年団水沢 Z 分団（団員 40 名）が約 32 年前の 1993 年 7 月に結団された時から、酒井さんはリーダーとして子供たちへの天文教育活動

に活躍されました[1]。ご自身は、「しゃべるのは得意ではない」とよくおっしゃって、裏方に回ることも多々ありました。それでも、昨年 10 月にご自分の天文台を会場に観望会を開かれた時には、近くの一関市在住の星仲間の方々にも協力していただきながら、設置されている様々な望遠鏡などで団員と保護者達に星の素晴らしさを熱く語っていただきました。水沢 Z 分団での天文教育に関わる他のリーダーの方々からは、次のような追悼の言葉が寄せられています。

「いつも、様々な天文現象の写真をいち早く団員・リーダーに見せてくださいました。撮影の苦労はあったと思いますが、それを微塵も見せることなく、淡々と、しかし少しうれしそうに話す姿が思い出されます。毎年、酒井リーダーご担当の観望会が楽しみでした。星の会のみなさんの協力も仰いでいただき、十分な数の望遠鏡をそろえていただきました。酒井リーダーの人徳の表れです。30 周年記念事業の準備では、学校へのチラシの配布という大変な作業を一手に引き受けてくださいました。」とか、「水ロケットの活動では、陸上競技場の建屋にロケットが乗ってしまったときに、業務用の梯子を使って迷うことなく素早く降ろしてくださいました。その的確な判断と行動力に、いつも助けられていました。」「いつも笑顔で周囲を明るくし、何かあるとすぐに手を差し伸べ支えてくださり、とても助けられました。」などの声が寄せられました。

また、私が関係する奥州市が管理運営する学習館である奥州宇宙遊学館では、管理者である NPO 法人イーハトーブ宇宙実践センターの一員として積極的に活動され、2 年前からは副理事長として、重責を務められていました。ご自身の撮影した天体写真を市民に見やすいように展示する酒井さんの星空コーナーは、図 2 のように最新の天文情報と共に、奥州宇宙遊学館の重要な天文コーナーになっ

ていました[2]。



図 2 奥州宇宙遊学館の酒井さんコーナー

2024 年春には、太陽活動が非常に活発になり、日本全国でもオーロラが観測されましたが、酒井さんも、素晴らしいオーロラの写真を撮影されました。奥州宇宙遊学館では、このオーロラ写真の展示コーナーを 2 階に設置しておりましたが、酒井さんが亡くなった事で、この写真を使いながら、急遽、図 3 のように酒井さんの追悼コーナーとさせていただきました。地元新聞社の記事にも載った事もあり、ご遺族も含めて多くの関係者の方々がいらっしゃり、ご覧になりました。



図 3 奥州宇宙遊学館での酒井栄さんを偲ぶ展示コーナー

酒井さんは、50 年以上に渡って、奥州市の星空を観察されることによって、人工光によ

る光害を特に肌で感じてこられたようです。2024年3月に刊行した日本宇宙少年団水沢Z分団の結成30周年記念誌に寄稿された文には、次のように書かれています[1]。「Z分団設立当時は、光害も少なく天の川銀河がよくみえましたが水沢の町明かりが影響して子供たちがよい星空を眺める機会が少なくなり、月と惑星を見てもらう事しかできないのが残念でした。これからは、年に一度くらい暗い空を求めて移動して本当の星空を眺めて宇宙の広さを体験する企画を計画していきたいと思います。」

岩手県は、国内では、星空が美しい事で定評があります。私も最近、奥州市内の星空の暗さの調査を実施しつつあります[3]。酒井さんの施設天文台付近を含め、市内全域にわたって天の川も良く見える環境の良い所があることが調査によって分かってきましたが、長年、奥州市で観測してきた酒井さんは、特に市街地を中心に年々ひどくなる光害を気にしてられたのだと思います。私は、この30周年記念誌に寄稿された文を読んで、昨年秋の水沢Z分団の活動で酒井さんのご自分の観測所を使われたお気持ちが少し分かった気がしました。

ところで、酒井さんは、小惑星の名前になっているのをご存じでしょうか。2014年に、星仲間の計らいで、1994年に円舘金氏と渡辺和郎氏が発見された小惑星14487番にSakaisakaeの名前がつけられました[4]。ちなみにこの小惑星は、通常の小惑星と同様に、火星と木星の間を公転し、その周期は約3.67年です。酒井さんが亡くなられた頃には、地球から見て火星のやや東に位置していました。酒井さんは、ひょっとすると、今は、小惑星Sakaisakaeから地球や星ぼしを観測されているのかもしれませんが。

文 献

- [1] 日本宇宙少年団水沢Z分団(2024)『日本宇宙少年団水沢Z分団の結成30周年記念誌』, p26.
- [2] 奥州宇宙遊学館 HP
<https://uchuyugakukan.com/>
- [3] 亀谷收(2025)「岩手県、特に奥州市における星空の暗さ調査」,天文教育,37(3): pp5-7.
- [4] 小惑星Sakaisakae JPL HP
https://ssd.jpl.nasa.gov/tools/sbdb_lookup.html#/?sstr=14487&view=VOPDA

亀 谷 收